

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間：2023年1月～2023年12月

発行日：2024年3月31日



<江藤産業グループ>
(株)九州エネルギー総合センター
北部江藤産業(株)
(株)アリマン未来
匹田電気工事(株)



目 次

1	環境経営方針	P 1
2	会社概要	P 2
3	E A 2 1 実施体制	P 3
4	事業及び組織見取り図	P 4
5	1 環境経営目標・・・江藤産業チーム合計	P 5
	2 環境経営目標・・・北部江藤産業チーム合計	P 6
	3 環境経営目標・・・アリマン未来	P 7
6	環境経営計画と実績	P 8
7	環境経営目標の実績と評価・・・グループ合計	P 9
	1 環境経営目標の実績と評価・・・江藤産業チーム合計	P 10
	2 環境経営目標の実績と評価・・・北部江藤産業チーム合計	P 11
	3 環境経営目標の実績と評価・・・アリマン未来	P 12
	4 環境経営目標の実績と評価・・・食品業者向けガイドラインへの対応	P 13
	5 電力の販売に関して	P 14
8	環境経営計画の取り組み結果とその評価	P 15
9	1 次年度以降の環境経営目標・・・江藤産業チーム合計	P 16
	2 次年度以降の環境経営目標・・・北部江藤産業チーム合計	P 17
	3 次年度以降の環境経営目標・・・アリマン未来	P 18
10	次年度の取組内容	P 19
11	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P 20
12	代表者による全体評価と見直しの結果	P 21
13	次年度以降の環境経営目標（拡大対象部門のみ）	P 22
14	地域貢献活動の状況	
	1 総合防災訓練	P 23
	2 第3回江藤産業杯県南地区小学生バレーボール大会	P 24
	3 佐伯城址石垣清掃ボランティア	P 25
15	その他環境活動の状況	P 26

1.環境経営方針

<基本理念>

エネルギー供給と関連する生活関連商品の提供を主業務とする当社は、地球環境との調和が企業の存続と活動にとって不可欠であるという認識のもとに、事業活動に於いての環境負荷の低減と地域社会に調和した環境改善に努めます。

<行動指針>

- 1 環境負荷の小さい高圧ガス（LPG、水素）や電力、並びに、地球と人にやさしい建設資材、食品等の関連商品、ないし、サービスの普及拡大に努めます。
- 2 環境管理体制を構築し、目的と目標を設定し、見直すことにより環境経営システムの継続的な改善推進に努めます。
- 3 事業活動を通じて省エネルギー、省資源、節水に努めるとともに、温室効果ガス排出量の削減、廃棄物の減量・適正処理、化学物質の適切な管理並びにリサイクルの推進やグリーン購入を行い、環境汚染の予防に努めます。
- 4 国、県、市町村及び関係機関で定める環境法条例や取り決め等を遵守する事はもとより、企業市民として社員の環境意識の高揚を図るとともに、地域社会の環境保全に努めます。

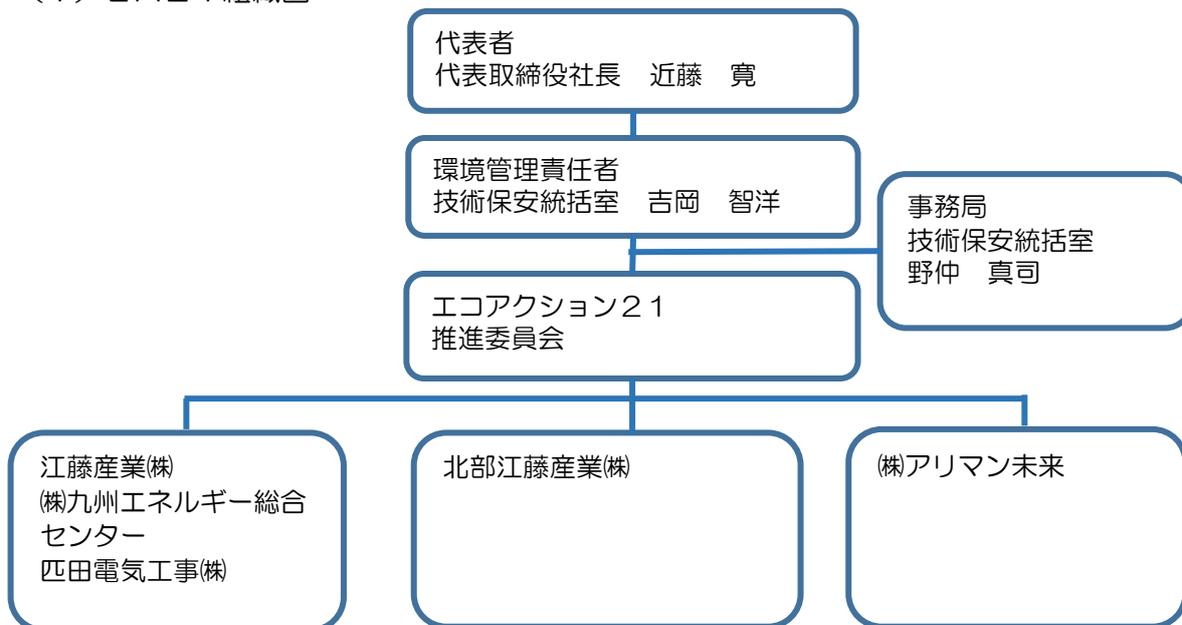
制定日： 2022年 3月 1日
江藤産業株式会社
代表取締役社長 近藤 寛

2.会社概要

- 1) 商号 江藤産業株式会社
- ① 本社所在地 〒870-0145 大分市乙津町1番18号 Tel.097-558-2502
- ② 創業 昭和21年10月
- ③ 設立 昭和49年11月1日
- ④ 資本金 75,000,000円
- ⑤ 主な事業内容 液化石油ガス・水素の充填・販売、石油類販売、ガス器具・住設器具、厨房器具等の販売、食品（冷凍食品含む）の卸売業、建設業（電気工事業、水道施設工事業）、空調設備機器の販売・空調設備工事、太陽光発電システムの販売、施工及び保守管理電力の販売
- ⑥ 人員 96名
- 2) グループ会社
- 株式会社九州エネルギー総合センター
所在地 大分市乙津町1番18号
設立 平成9年1月
人員 36名
事業内容 ・液化石油ガス配管工事
・給水配管等の工事
・液化石油ガスの保安点検調査
・液化石油ガスの配送業務
- 株式会社アリマン未来
所在地 大分市乙津町1番18号
設立 平成12年12月
人員 13名
事業内容 ・加工食品の販売
・米、穀物類の販売
・酒類の販売
- 北部江藤産業株式会社
所在地 大分市乙津町1番18号
設立 平成19年11月
人員 11名
事業内容 ・液化石油ガス及び石油類の卸、小売販売
・ガス関連、住設、生活関連機器の販売
・高圧ガス配管工事に関する設計、施工、管理
・建設、増改築の設計、施工、管理
- 匹田電気工事株式会社
所在地 佐伯市女島10429番地の3
設立 昭和36年11月
人員 19名
事業内容 ・土木工事
・電気工事
・管工事
・消防施設工事
・不動産賃貸
- 3) グループ概要
- | | | |
|-------|----------------------|------------------------|
| ・人員 | 175 名 | |
| ・建屋面積 | 5,848 m ² | ※グループ合計
(17拠点 P4参照) |

3.EA21実施体制

(1) EA21組織図



(2) 役割と責任及び権限

名 称	役割 権限 責任
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括管理者 環境経営に必要な経営資源（人・物・資金）を準備する。 環境管理責任者の任命 環境経営方針を定める 環境経営目標及び環境経営計画、実施体制を承認する 代表者による全体の評価と見直しを実施する 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、運用、管理に関する責任者 環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する エコアクション21推進委員会の責任者 環境関連法規等の取り纏め表の承認、遵守状況チェック結果の承認 各部門の環境経営目標、環境経営計画、実施体制の確認と全体調整 環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 問題点の是正及び予防措置の承認 環境経営レポートの確認
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、エコアクション21推進委員会の事務局 環境関連文書、記録の管理 環境経営に関する実績のとりまとめ 外部環境コミュニケーションに関する窓口 環境経営レポートの作成
エコアクション21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標、環境経営計画の伝達 全社の意思統一、意見交換及び相互・全体評価の実施 各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告 効果的な環境経営に向けての提案・意見の交換
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営及び環境経営計画の企画・作成・実施 自部門における環境活動の実施、目標達成状況を委員会に報告する 自部門に必要な手順書などの作成、管理 自部門の問題点の発見及び是正、予防処置を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する 自主的、積極的に環境活動に参加する

4.事業及び組織見取り図

会社名	営業所名	住所	人員	EA21セクション										
				大分地区	速見地区	臼津地区	豊肥地区	佐伯地区	延岡地区	宇佐地区	福岡地区	佐賀地区		
江藤産業	本社及び大分営業所(オートガスステーション)	大分県大分市乙津町1番18号 備考：本社及びショールーム、LPガス販売所、オートガススタンド、水素充てん設備、炊火-リ-	67	◎										
	速見営業所	大分県杵築市山香町大字野原3549-1 備考：LPガス販売所	4		◎									
	三重営業所	大分県豊後大野市三重町大字赤嶺字萩通路1186番地の1 備考：LPガス販売所	3				◎							
	臼杵営業所	大分県臼杵市大字野田342-2 備考：LPガス販売所	3			◎								
	津久見営業所	大分県津久見市志手町9番15号 備考：LPガス販売所	3			◎								
	佐伯営業所	大分県佐伯市東町26番10号 備考：LPガス販売所	8					◎						
	佐伯スタジオ	大分県佐伯市常盤南町9番11号 備考：創業者記念館、リフォームコーナー	1					◎						
	延岡営業所	宮崎県延岡市大武町753-4 備考：LPガス販売所	3							△				
	福岡支店	福岡県福岡市博多区山王1丁目10-1171(佐賀山王公園前107号) 備考：建設営業及び工務事務所	4										◎	
北部江藤産業	北九州営業所	福岡県北九州市小倉北区西港町91-6 備考：LPガス販売所	5										×	
	県北営業所	大分県宇佐市大字上元重字小田尾254-4 備考：LPガス販売所	3									×		
	佐賀営業所	佐賀県兵庫町大字瓦町字三本黒木457-2 備考：LPガス販売所	3											◎
総合エネルギー九州	大分事業所	大分県大分市乙津町1番18号 備考：認定保安機関、設備工事、LPガス販売所	17	□										
	佐伯事業所	大分県佐伯市東町26番10号 備考：認定保安機関、設備工事、容器配送	15						□					
	延岡事業所	宮崎県延岡市大武町753-4 備考：認定保安機関、設備工事、容器配送	4								△			
アリマン未来	大分県大分市乙津町1番18号 備考：食品、米、厨房機器販売及びLPガス販売所	13	□											
匹田電気工事	大分県佐伯市女島10429番地の3 備考：電気工事業	19						◎						
合 計			175											

※ 環境負荷 全て自社把握 ◎ 自社で全ての環境負荷を把握
 環境負荷のみ △ 管轄する事業所で一括把握⇒経費比で案分
 自社外1パターン × 江藤酸素(株)で一括把握⇒経費比で案分
 自社外2パターン □ 江藤産業(株)で一括把握⇒経費比で案分

(注)江藤酸素(株)は親会社にあたり、認証登録範囲外である。

5-1.環境経営目標

【江藤産業T】※1

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	715,548 kg-CO2	708,393 基準年度比△1%	701,237 基準年度比△2%	694,082 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	198,548 kWh	196,563 基準年度比△1%	194,577 基準年度比△2%	192,592 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	114,321 ℓ	113,178 基準年度比△1%	112,035 基準年度比△2%	110,891 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	111,762 ℓ	110,644 基準年度比△1%	109,527 基準年度比△2%	108,409 基準年度比△3%
2-1	産業廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 98%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
2-2	建設廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底
3	水使用量削減 (水使用量)	1,574 m ³	1,558 基準年度比△1%	1,543 基準年度比△2%	1,527 基準年度比△3%
4	社内・消費者の爆発・火 災事故ゼロ→監査・調 査・点検の実施	0 件	0 件	0 件	0 件
5	環境負荷軽減重機の使 用(建設部門)100%	100%	100%	100%	100%
6	社会貢献への参加→献 血等への参加	スポーツ・文 化振興の推進	スポーツ・文 化振興の推進	スポーツ・文 化振興の推進	スポーツ・文 化振興の推進

※1 江藤産業Tの説明： Tはチームの略。

対象となる事業者は、江藤産業(株)と(株)九州エレクトロニクス総合センター及び各拠点

※2 CO2排出係数の説明： 新電力おおいの2020年調整後排出係数で換算した。

5-2.環境経営目標

【北部江藤産業T】※1

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	59,886 kg-CO2	59,287 基準年度比△1%	58,688 基準年度比△2%	58,089 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	39,464 kWh	39,069 基準年度比△1%	38,675 基準年度比△2%	38,280 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	14,768 ℓ	14,620 基準年度比△1%	14,473 基準年度比△2%	14,325 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	0 ℓ	0 ℓ	0 ℓ	0 ℓ
2	産業廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 95%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
3	水使用量削減 (水使用量)	82 m ³	81 基準年度比△1%	80 基準年度比△2%	79 基準年度比△3%
4	社内・消費者の爆発・火 災事故ゼロ→監査・点 検・検査の実施	0 件	0 件	0 件	0 件
5	社会貢献への参加→献 血等への参加				

※1 北部江藤産業Tの説明： Tはチームの略。

対象となる事業者は、北部江藤産業(株)と大分EBL水素ステーション(株)及び各拠点

※2 CO2排出係数の説明： 新電力おおいたの2020年調整後排出係数で換算した。

5-3.環境経営目標

【アリマン未来】

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※1	189,383 kg-CO2	187,489 基準年度比△1%	185,595 基準年度比△2%	183,702 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	225,816 kWh	223,558 基準年度比△1%	221,299 基準年度比△2%	219,042 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	17,231 ℓ	17,059 基準年度比△1%	16,886 基準年度比△2%	16,714 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	12,094 ℓ	11,973 基準年度比△1%	11,852 基準年度比△2%	11,731 基準年度比△3%
2	産業廃棄物の管理	リサイクル率 100%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
3	水使用量削減 (水使用量)	515 m ³	510 基準年度比△1%	505 基準年度比△2%	500 基準年度比△3%
4	食品廃棄物排出	0 kg	0 kg	0 kg	0 kg
5	冷凍機の管理	100%	100%	100%	100%
6	社会貢献への参加	献血への参加	取り組み	取り組み	取り組み

※1 CO2排出係数の説明： 新電力おおいたの2020年調整後排出係数で換算した。

6.環境経営計画と実績

2024年3月16日

当社における環境活動計画は以下の通り評価した。

環境管理責任者 吉岡 智洋

目標課題	具体的な行動	対象チーム	評価
電力消費量の削減	昼休みの消灯	全部門	○
	空調の適温化		○
	ブラインド等の利用により熱の出入りを調節		○
	クールビズの実施		○
自動車燃料の消費量の削減	乗車前の点検	全部門	△
	積載重量の適正管理		○
	エコカーの導入推進		○
廃棄物排出量の削減	廃棄物の適正な分別	全部門	○
	在庫数量の適正管理		○
	紙使用量の削減		○
	資源ごみ回収委託によるリサイクル活動		○
	マニフェストの管理		○
	家電リサイクル券の適正管理		○
	建設リサイクル：分別の徹底、ルールの遵守	江藤産業T	○
水使用量の削減	トイレ大小レバーの使い分け	全部門	○
	流し洗いをしない		○
爆発・火災事故ゼロ	防災訓練の実施	全部門	○
	保安教育の定期的な実施		○
	各種安全機器の設置推進		○
	各種点検調査の適正実施		○
環境負荷軽減重機の使用	低騒音、低振動、低燃費重機の使用	江藤産業T	○
社会貢献の参加	事務所周囲の清掃活動	全部門	△
	スポーツ・文化振興の推進		○
化学物質使用時の事故防止	保護具の使用	江藤産業T	○
	物質の適正で安全な取り扱いの徹底		○
食品廃棄物排出ゼロ	在庫管理（賞味期限の管理と最適な発注）	アリマン未来	○
冷凍機の管理	冷凍機の自主点検（1回/日）	アリマン未来	○
	冷蔵庫の異常温度及び異常音ゼロ		○
	メンテナンスの強化		○

7.環境経営目標の実績と評価

対象期間（2023年1月～12月）の実績を下表に示す。

【グループ全体】

項目	単位	基準年	実績
		2021年度 1月～12月	2023年度 1月～12月
二酸化炭素排出量	kg-CO2	964,817	916,300
電力消費量	kWh	463,828	477,762
ガソリン消費量	ℓ	146,320	131,544
軽油消費量	ℓ	123,856	116,738
産業廃棄物 リサイクル率	%	98%	93%
建設廃棄物 リサイクル率	%	100%	100%
水使用量	m ³	2,171	2,115
社会貢献の参加	回	文化振興の推進	文化振興の推進中

※社会貢献の参加は、年度末に評価する。

7-1. 環境経営目標の実績と評価

対象期間：2023年1月～2023年12月

【江藤産業T】

評価基準：○100%以上 △90%以上100%未満 ×90%未満

環境方針番号	選択課題		基準年度 2021年度	目標 2023年度	実績 2023年度	目標 達成率	評価
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)	計	715,548	701,237	693,972		
		評価と次年度の取組内容					
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	計	198,548	194,577	228,312	85%	×
		評価と次年度の取組内容	建設現場の購入電力前年比15%増加に伴い、全体が前年比8%増加し、目標は未達となった。建設業の売上増加に伴い、この傾向は続くと考え。				
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	計	114,321	112,035	106,393	105%	○
		評価と次年度の取組内容	WEBを利用した会議や講習会の増加により車両の燃焼消費量が減少した。今後も効率的な運行を行う。				
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	計	111,762	109,527	106,301	103%	○
		評価と次年度の取組内容	ローリー車を更新した際に大型化したため、基準年度より配送回数が増加したことに伴い、走行距離も減少し、消費量が削減された。				
2-1	産業廃棄物 リサイクルの推進	廃棄物リサイクル率	98%	90%以上	87%	97%	△
		評価と次年度の取組内容	再資源化が困難な廃棄物の比率が高く、目標未達となった。今後も分別を徹底する。				
2-2	建設廃棄物排出 リサイクルの推進	廃棄物リサイクル率	100%	100%	100%	100%	○
		評価と次年度の取組内容	建設リサイクル法対象の工事でリサイクルを推進した。各現場で重要な活動として取り組み目標を達成した。今後とも維持していく。				
3	水使用量削減 (水使用量)	計	1,574	1,543	1,658	93%	△
		評価と次年度の取組内容	消費量自体は昨年比で半減したが、目標は未達となった。今後も節水に努め、使用量の削減に努める。				
4	爆発火災事故ゼロ	計	0	0	0	100%	○
		評価と次年度の取組内容	各種保安対策を行い、無事故達成となった。引き続き事故防止に努める。				
5	環境負荷軽減重機の使用 (建設部門)		100%	100%	100%	100%	○
6	社会貢献への参加		文化振興 の推進	文化振興 の推進	バレーボール 大会を主催	100%	○

7-2. 環境経営目標の実績と評価

対象期間：2023年1月～2023年12月

【北部江藤産業T】

評価基準：○100%以上 △90%以上100%未満 ×90%未満

環境方針番号	選択課題		基準年度 2021年度	目標 2023年度	実績 2023年度	目標 達成率	評価
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)	計	59,886	58,688	52,156		
		評価と次年度の取組内容					
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	計	39,464	38,675	40,966	94%	△
		評価と次年度の取組内容	水素ステーションの充電量は増加したが、各営業所の節電努力の結果、全体では前年比で1%減少となった。今後も消費量削減を継続する。				
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	計	14,768	14,473	11,895	122%	○
		評価と次年度の取組内容	人員減による車両使用の減少が要因。今後も消費量削減に努める。				
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	計	0	0	0	0%	○
		評価と次年度の取組内容	軽油を燃料とする車両無し。今後も導入予定無し。				
2	産業廃棄物 リサイクルの推進	廃棄物リサイクル率	リサイクル率 95%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 91%	リサイクル率 101%	○
		評価と次年度の取組内容	入居している親会社ビルの共同廃棄物置場を利用しており、一定の比率で親会社より費用のみ請求されているため、今後も極力分別し、適正に処理する。				
3	水使用量削減 (水使用量)	計	82	80	66	121%	○
		評価と次年度の取組内容	人員減少により使用量が減少した。引き続き節水に努める。				
4	爆発火災事故ゼロ		0	0	0	0	○
5	社会貢献への参加					100%	○

7-3. 環境経営目標の実績と評価

対象期間：2023年1月～2023年12月

【アリマン未来】

評価基準：○100%以上 △90%以上100%未満 ×90%未満

環境方針番号	選択課題		基準年度 2021年度	目標 2023年度	実績 2023年度	目標 達成率	評価
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)	計	189,383	185,595	170,172		
		評価と次年度の取組内容					
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	計	225,816	221,299	208,484	106%	○
		評価と次年度の取組内容	冷凍倉庫前室での作業時間削減を意識し、冷凍機の稼働時間が減少したため目標達成となった。				
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	計	17,231	16,886	13,256	127%	○
		評価と次年度の取組内容	配送ルートの効率化が目標達成の要因となった。				
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	計	12,094	11,852	10,437	114%	○
		評価と次年度の取組内容	ガソリンと同様に配送ルートの効率化が目標達成の要因となった。				
2	産業廃棄物排出		リサイクル率 100%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	○
3	水使用量削減 (水使用量)	計	515	505	391	129%	○
		評価と次年度の取組内容	適正な使用を心掛けた結果、目標達成となった。引き続き節水に努め、毎月、使用量の推移を注視する。				
4	食品廃棄物排出ゼロ	計	0	0	0	100%	○
		評価と次年度の取組内容	メーカー違いの同等品を統合したり、特殊品は受注発注やケース納品に切り替えることにより、在庫を削減し排出ゼロを達成した。今後も在庫管理を徹底する。				
5	冷凍機の管理		100%	100%	100%	100%	○
6	社会貢献への参加		献血への参加	献血への参加	年2回献血車を構内に招き協力している	100%	○

7-4.環境経営目標の実績と評価

【アリマン未来】

株式会社アリマン未来における食品業者向けガイドラインへの対応
＜食品リサイクルについて＞

- 1) 現状把握の状況
 - ・2023年度の商品取扱総重量：1,190t
 - ・2023年度（運用期間）の廃棄物総重量：0kg
- 2) 考察
 - ①取扱量と廃棄物排出の整合 廃棄物の排出は、2023年度の取扱時に発生した廃棄物である。
 - ②2022年度の取扱量対比廃棄物発生率
 $0\text{kg} \div 1,190,000\text{kg} = 0\%$ ⇒ 環境目標の排出率0.01以下は達成
廃棄物発生率は「ゼロ」である。
 - ③廃棄物発生量ほぼ「ゼロ」の原動力
経費削減の活動から、抑制活動を徹底している結果である。これが食品廃棄物発生率極減の要因である。食品リサイクル法ではこの抑制策を最初的手段として推奨している。
 - ④直接的なりサイクルの検討
廃棄物区分は破損（内容物が直、廃棄物）と期限切れ（パック、箱など）に分類される。内容は冷凍品、冷蔵品、調味料など多岐にわたり、また、ランダムに生じる。そのためリサイクル方法が固定できない。
 - ⑤廃棄物発生量「ゼロ」達成の活動（実施評価）
従来より行っている破損商品販売の創意工夫に加えて、破損しにくい商品への集約化を行い、破損自体の発生を抑制する施策を継続して行っている。
また、在庫削減策として、同等品のメーカー違い商品を統合して1社にまとめたり、特殊品などを受注発注やケース納品に切り替えて販売を進めた。
これが今回の廃棄物排出量「ゼロ」を達成した活動である。
- 3) 食品リサイクル法及び食品関連事業者向けガイドラインに関する判断と今後の取組
食品リサイクル法に関しては、計画策定や報告義務は無く、抑制の推進をしており適応している。
ガイドラインに関しては、上記考察に基づき、下記を実施していく。
 - ①発注の際に適切な製品と適切な量を検討する。（誤発注や見込み違いを防止する。）
 - ②取扱総量、廃棄物排出量及び品目などのデータを把握していく。
 - ③食品リサイクル化の目標は「発生率0.01%以下」を設定して取り組む。
（数値の見直しは今後も実施していく）
E A 2 1 で目標を掲げて取り組むことを改めて社員に周知を図り、廃棄物削減を推進していく。
 - ④廃棄物排出抑制策を確実に実施していく。
月1回の現物棚卸による状況把握と対応、作業時の破損発生時の原因究明と作業改善、適切な在庫管理、消費期限直前の商品の販売先開拓などを進める。
 - ⑤廃棄物排出率を監視して異常な排出抑制量の時は即、対応策を決定して実施する。
 - ⑥廃棄物が発生した場合は、一般廃棄物として業者に引き渡し、焼却処分に行っている。
廃棄食品のリサイクルの方法を処理業者とも相談して、リサイクル化にも取り組んでいく。

7-5.電力の販売に関して

【江藤産業】

江藤産業株式会社による電力の販売に関して
＜新電力事業について＞

1) 事業の概要

①事業開始年月

2019年4月

②新電力事業所

新電力おおいた株式会社

③ブランド名

おおいたのでんき

④料金プラン

おおいたのでんきB/おおいたのでんきC/おおいたのでんきN/おおいたのでんきK
おおいたのでんきJ/RE100プラン/SUN給プラン/低圧電力（動力）/高圧電力
合計9プラン

2) 事業の現状

- ・主にガスユーザーに向けてガスと電気のセット料金の提案を行っている。
- ・工場や店舗等の大口電力需要家向け高圧電力についても積極提案を行っている。

3) 実績・評価

①実績

- ・契約戸数 4,480戸（2023年12月末時点）
- ・売上高 492百万円（2023年1月～12月）

②評価

- ・国の激変緩和対策事業による電気料金値引きの影響があり、売上高は減少した。

4) 今後の取り組み

- ・電力市場の状況を考慮しつつ、電力販売を通じて最適なエネルギー提案を行っていく。

8.環境経営計画の取り組み結果とその評価

- 1) 二酸化炭素排出量削減
コロナ禍の影響により、各種の活動が制限されたことや、組織の縮小もあり、エネルギー使用量の減少が二酸化炭素の排出量の抑制に繋がった。
- 2) 電力消費量削減
前年比4%の増加要因は建設現場の増加に伴う消費量の増加が主である。
前年の増加要因であった食品倉庫の冷凍機は作業の見直しにより改善された。
- 3) ガソリン消費量削減
昨年よりも更に消費量は減少したが、要因の一つとしてWEBを利用した会議や講習会の増加が挙げられる。今後も効率的な運行を励行する。
- 4) 軽油消費量削減
主に食品部門の配送効率化が功を奏し、全般的に消費量が減少した。
- 5) 産業廃棄物リサイクルの推進
再資源化が困難な廃棄物の増加により目標が未達となった。今後も分別は継続し、再資源化率の向上を目指す。
- 6) 建設廃棄物排出リサイクルの推進
建設リサイクル法に沿って活動し、目標を達成した。今後も継続していく。
- 7) 水使用量削減
全体の節水意識の向上と、特に建設現場での消費量減少が要因として、前年比4割強の減少となった。今後も節水に努め、目標達成する。
- 8) 爆発・火災事故ゼロ
各種安全対策を講じたため、事故ゼロとなった。今後も予防保全と自主保安を拡充し、無事故を達成する。
- 9) 環境負荷軽減重機の使用
協力業者に依頼し、低騒音で燃費に優れた重機を使用した。
- 10) 社会貢献への参加
地域貢献活動として、小学生とのバレーボール参加によるスポーツ・文化の振興に努めた。
- 11) 化学物質の評価
化学物質を含む製品は、取り扱い中に保護具を装着し保管も適正であった。
- 12) 食品廃棄物発生率の抑制
在庫削減策を推進したことが主な要因となり、発生率ゼロを達成した。
- 13) 冷凍機の管理
始業開始前に倉庫担当者が冷凍機の温度及び異常音を確認し、適切な管理を継続することにより、食品の保管温度を適正に保ち、廃棄物発生ゼロの実現へ寄与している。

9-1.次年度以降の環境経営目標

【江藤産業T】※1

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	707,209 kg-CO2	700,137 基準年度比△1%	693,065 基準年度比△2%	685,993 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	198,548 kWh	196,563 基準年度比△1%	194,577 基準年度比△2%	192,592 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	114,321 ℓ	113,178 基準年度比△1%	112,035 基準年度比△2%	110,891 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	111,762 ℓ	110,644 基準年度比△1%	109,527 基準年度比△2%	108,409 基準年度比△3%
2-1	産業廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 98%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
2-2	建設廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底
3	水使用量削減 (水使用量)	1,574 m ³	1,558 基準年度比△1%	1,543 基準年度比△2%	1,527 基準年度比△3%
4	社内・消費者の爆発・火 災事故ゼロ→監査・調 査・点検の実施	0 件	0 件	0 件	0 件
5	環境負荷軽減重機の使 用(建設部門)100%	100%	100%	100%	100%
6	社会貢献への参加	地域貢献を啓発 する	地域貢献を啓発 する	地域貢献を啓発 する	地域貢献を啓発 する

※1 <江藤産業Tの説明>

Tはチームの略。

対象となる事業者は、江藤産業(株)と(株)九州I社* -総合センター及び各拠点

9-2.次年度以降の環境経営目標

【北部江藤産業T】※1

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	58,228 kg-CO2	57,646 基準年度比△1%	57,063 基準年度比△2%	56,481 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	39,464 kWh	39,069 基準年度比△1%	38,675 基準年度比△2%	38,280 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	14,768 ℓ	14,620 基準年度比△1%	14,473 基準年度比△2%	14,325 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	0 ℓ	0 基準年度比△1%	0 基準年度比△2%	0 基準年度比△3%
2	産業廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 95%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
3	水使用量削減 (水使用量)	82 m ³	81 基準年度比△1%	80 基準年度比△2%	79 基準年度比△3%
4	社内・消費者の爆発・火 災事故ゼロ→監査・調 査・点検の実施	0 件	0 件	0 件	0 件
5	社会貢献への参加	データ無し	献血を啓発する	献血を啓発する	献血を啓発する

※1 <北部江藤産業Tの説明>

Tはチームの略。

対象となる事業者は、北部江藤産業(株)と大分E B L 水素ステーション(株)及び各拠点

9-3.次年度以降の環境経営目標

【アリマン未来】

【各年度の対象期間は、決算年度 1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2021年度	目標 2022年度	目標 2023年度	目標 2024年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	179,899 kg-CO2	178,100 基準年度比△1%	176,301 基準年度比△2%	174,502 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	225,816 kWh	223,558 基準年度比△1%	221,299 基準年度比△2%	219,042 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	17,231 ℓ	17,059 基準年度比△1%	16,886 基準年度比△2%	16,714 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	12,094 ℓ	11,973 基準年度比△1%	11,852 基準年度比△2%	11,731 基準年度比△3%
2	産業廃棄物の管理	リサイクル率 100%	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 90%以上
3	水使用量削減 (水使用量)	515 m ³	510 基準年度比△1%	505 基準年度比△2%	500 基準年度比△3%
4	食品廃棄物排出ゼロ	0 件	0 件	0 件	0 件
5	冷凍機の管理	100%	100%	100%	100%
6	社会貢献への参加	地域貢献を啓発 する。	地域貢献を啓発 する。	地域貢献を啓発 する。	地域貢献を啓発 する。

10.次年度の取組内容

次年度における取り組み内容は以下の通り。

目標課題	具体的な行動	対象チーム
電力消費量の削減	在席時のみ照明の点灯 空調の適温化 ブラインド等の利用により熱の出入りを調節 OA機器を長時間使用しない場合の電源オフ	全部門
自動車燃料の消費量の削減	乗車前の点検 積載重量の適正管理 燃費に配慮した安全運転の励行 テレワークやWEB会議活用による消費量の削減	全部門
廃棄物排出量の削減	廃棄物の適正な分別 在庫数量の適正管理 紙使用量の削減 資源ごみ回収委託によるリサイクル活動 マニフェストの管理 家電リサイクル券の適正管理	全部門
水使用量の削減	吐出量の適量使用 流し洗いをしない	全部門
爆発・火災事故ゼロ	防災訓練の実施 保安教育の定期的な実施 各種安全機器の設置推進 各種点検調査の適正実施	全部門
環境負荷軽減重機の使用	低騒音、低振動、低燃費重機の使用	江藤産業T
社会貢献の参加	ボランティア活動への参加 地域活動への積極的な参加	全部門
化学物質使用時の事故防止	保護具の使用 物質の適正で安全な取り扱いの徹底	江藤産業T
食品廃棄物排出ゼロ	在庫管理（賞味期限の管理と最適な発注）	アリマン未来
冷凍機の管理	冷凍機の自主点検（1回/日） 冷蔵庫の異常温度及び異常音ゼロ メンテナンスの強化	アリマン未来

1.1.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2024年3月8日

環境関連法令等の遵守状況について以下の通り評価した。

環境管理責任者 吉岡 智洋

No.	関係法令	法令の遵守すべき事項	チェック内容	結果
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の保管基準	標識と保管状況	○
		排出事業者責任	委託契約書 マニフェスト	○
2	大分市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	廃棄ゴミのリサイクル推進による再資源化率の向上	紙類のリサイクル実績	○
3	家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物の引取、引渡	特定家庭用機器廃棄物管理票	○
4	食品衛生法	許可営業、食品等に関する規制	許可証の表示	○
			食品の管理基準	
5	食品リサイクル法	食品廃棄物等の発生抑制	賞味期限切れによる廃棄処分の抑制状況	○
6	騒音規制法	特定建設作業の届出	届出控	○
7	振動規制法	特定建設作業の届出	届出控	○
8	液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律	液化石油ガス、液化石油ガス器具の適切な販売	社内保安監査	○
9	ガス事業法	ガス事業の適切な運営	社内保安監査	○
		ガスの安定供給		
10	高圧ガス保安法	高圧ガスによる災害の防止、製造設備の保安体制の確保	社内保安監査	○
11	消防法	地下、移動タンクの法定検査	社内保安監査	○
12	水質汚濁防止法	事故時の対応の実施	設備点検記録	○
		消防署との協議	在庫管理記録	
13	道路交通法	道路使用の許可	届出控	○
14	浄化槽法	保守点検	保守点検記録	○
		定期検査	検査結果書	
15	フロン排出抑制法	冷凍機、業務用エアコンの点検	点検記録	○
16	労働安全衛生法	危険予知活動	安全パトロール	○
		日報、新規入場者教育		

※環境関連法令の違反や苦情はありません。又、関係当局より違反の指摘、訴訟もありません。

1.2.代表者による全体評価と見直しの結果

当社は設立以来、LPガス事業、電力小売事業や水素を取り扱う総合エネルギー企業として、培ったエネルギーの知見を活かし、地球環境に配慮した建設設計や施工を心がけてまいりました。さらに、「地域密着型企业」として環境問題にも積極的に取り組むため、2018年12月に「エコアクション21」の認証・登録を取得して、環境活動を強化してまいりました。

環境活動における2023年の取り組みでは、建設事業の活発化による電力消費量の増加といった止むを得ない事象はありましたが、社員の環境活動に対する意識の向上を筆頭に、WEB会議の積極的な活用や、車両や人員の適切な配置などの細かな創意工夫を積み上げていった結果、その他の項目では昨年よりも数値は向上し、概ね目標を達成することができました。

今後はさらなるIT化やデジタル機器の活用を通じて、二酸化炭素の排出量の削減を進めてまいります。

そして、設立から50周年のこの節目に、次の50年後、100年後の快適な住まいとより良い暮らしを実現するため、その意思表示として、これからのブランド指針を「Energy & Construction」と定め、ロゴマークも一新いたしました。

気候変動によって多くの問題が報告される昨今、未来のために貢献することを弊社の大切な使命として、日々の研鑽に努めてまいります。なお、環境経営方針、環境経営目標及び実施体制は、今後も継続していきます。



2024年3月25日

江藤産業株式会社

代表取締役社長 近藤 寛

13.次年度以降の環境経営目標（拡大対象部門のみ）

【四田電気工事株式会社】

【各年度の対象期間は、1月～12月】

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2023年度	目標 2024年度	目標 2025年度	目標 2026年度
1	二酸化炭素排出量削減 (CO2排出量)※2	48,417 kg-CO2	47,933 基準年度比△1%	47,449 基準年度比△2%	46,965 基準年度比△3%
1-1	電力消費量削減 (電気消費量)	24,684 kWh	24,437 基準年度比△1%	24,190 基準年度比△2%	23,944 基準年度比△3%
1-2	ガソリン消費量削減 (ガソリン消費量)	11,490 ℓ	11,375 基準年度比△1%	11,260 基準年度比△2%	11,145 基準年度比△3%
1-3	軽油消費量削減 (軽油消費量)	4,380 ℓ	4,336 基準年度比△1%	4,292 基準年度比△2%	4,249 基準年度比△3%
2-1	産業廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 98%	リサイクル率 98%以上	リサイクル率 98%以上	リサイクル率 98%以上
2-2	建設廃棄物 リサイクル推進	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底	リサイクル率 100%徹底
3	水使用量削減 (水使用量)	153 m ³	152 基準年度比△1%	150 基準年度比△2%	148 基準年度比△3%
4	工事故ゼロ→監査・調査・点検の実施	0 件	0 件	0 件	0 件
5	社会貢献への参加	献血を啓発する	献血を啓発する	献血を啓発する	献血を啓発する

※試行結果は別途提出する

14-1. 地域貢献活動の状況

平成23年3月に発生した東日本大震災の教訓を忘れないように、その年から毎年、防災訓練を実施してきました。訓練内容として、佐伯市にある高圧ガス製造施設では、大規模地震を想定した早期復旧訓練や漏えいを想定した応急措置訓練等を実施したり、本社ビルでは消防署員の指導の下、地震体験車両を使用して最大震度7の地震を体験することも行いました。又、本社を含む営業所所員を対象にした緊急一斉メール配信訓練や各自に支給された非常用防災バッグを担いだ避難訓練も実施し、災害時に備えてまいりました。

令和5年3月10日には、本社にて総合防災訓練を実施しました。訓練の一部で大分東消防署の署員を講師としてお招きし、はしご車を使用した屋上からの避難訓練を当社のお客様に体験して頂きました。また、ビル内からの避難訓練や水消火器を使用した消火訓練を行いました。

今後も災害に備え、LPガス安定供給のための早期復旧訓練や、災害に関する体験型訓練などを通じて、地域貢献に取り組んでまいります。

【総合防災訓練の様子】

実施年月日：令和5年3月10日

実施場所：大分県大分市乙津町

江藤産業(株)本社屋



14-2. 地域貢献活動の状況

地域貢献活動の一環として、三年前より当社発祥の地である大分県佐伯市のスポーツ少年団に対し、当社の松岡社員が中心となって活動支援を行っております。

その活動支援の一つとして、令和5年4月22日に佐伯中央病院アリーナにて、大分県県南地区小学生バレーボール連盟との共催、佐伯市教育委員会の後援により、「第3回江藤産業杯 県南地区小学生バレーボール大会」を開催しました。

大会には大分県佐伯市、近隣の津久見市や臼杵市、豊後大野市より前回より3チーム増加の全12チームが出場し熱戦を繰り広げました。

スポーツを通して地域の未来を担う学童の育成を支援することを目的に、大会だけではなく、日頃の練習にも当社社員が巡回指導しています。

今後もこの地域貢献活動を継続し、地域の皆様からの信頼に繋がりたいと考えています。

【大会の様子】

- 熱戦の様子



- 松岡社員（元日本代表）による技術指導や飲料ブースの様子



- 優勝チームの集合写真



14-3.地域貢献活動の状況

令和2年8月に江藤産業グループに加わり、令和5年からエコアクション21の対象事業所として加わった匹田電気工事株式会社は、昭和36年設立の非常に歴史ある会社で、従前から地域貢献活動に力を入れています。

令和4年11月には総勢100名以上の参加者で実施された佐伯市役所主催の佐伯城址「石垣清掃ボランティア」に参加し、地域の方との交流を深めながら清掃活動を行いました。
【清掃活動の様子】



15.その他環境活動の状況

世界は温暖化の影響を受け、脱炭素社会へ舵を切りました。脱炭素に向けたエネルギー供給の選択肢の一つは「水素」です。弊社はこの水素事業に2016年から参入しています。

弊社は、大分県唯一の水素充填所として、保安、安全、安定供給に努めています。

令和5年11月から、JR九州が日田彦山線で実証運転している燃料電池バスに、九重町で生産する、製造工程で二酸化炭素を排出しない「グリーン水素」を当社が現地に届けています。

【燃料電池バス】



また、弊社の水素サプライチェーンの構築に向けた取り組みが評価され、8月21日に開催された大分県の「おおいたうつくし作戦功労者」で、環境保全に関する技術開発部門において感謝状の贈呈を受けました。今後も、総合エネルギー企業として、水素の利活用を通じて地域の持続可能な未来を支えてまいります。

【感謝状贈呈式の様子】

